

同時に行政説明会が開催されています。

最初は、障がい者の福祉施策について、厚生労働省の障害福祉課からありました。近年、障がい者数が年々増加傾向にあり、全国では787万9千人で人口の約6.2%に相当するという話題から始まりました。特に増加が著しいのが障がい児であり、1年間で18%増加しているという調査結果の報告もありました。次に平成30年4月から始まる法施行後3年後の見直しにかかる新規事業ならびに事業内容の一部変更に関する説明がありました。内容は「手をつなぐ」11月号に掲載されている内容とほぼ同一でした。

2番目は障がい者の就労施策について、厚生労働省の障害者雇用対策課からありました。始めに障がい者の法定雇用率が平成25年4月に1.8%から2.0%に上がったこと伴ない、障がい者雇用が毎年過去最高を記録している現状の説明がありました。全国平均では1.92%で達成も目前ということでした。ただし、知的障がいのある方を雇用する制度が始まり30年弱で、ようやく10万人を突破しましたが、精神障がいのある方の雇用する制度が始まり10年あまりで4万人を超えるという状況で、急速に伸びています。また、企業の受け入れ状況では大企業で積極的な雇用が進んでいますが、中小企業では雇用がなかなか進んでいない実態があるという話もありました。

最後は特別支援教育施策について、文部科学省の特別支援教育課からありました。全国的に発達障がいのある児童が急速に増えてきている現状の説明から始まり、その影響により各地の支援学校で教室が不足、教員が不足している現状の報告がありました。また、文部科学省ではこれらの状況の是正に向け、教員定数の増加を財務省に予算要求をしたところ、財源の兼ね合いから逆に教員定数の削減を求められました。しかし、全国連合会から強力な働きかけもあり、最終的には文部科学省の要求通りの定数増加が達成できたという報告もありました。

平成30年度には福祉施策、教育施策とも大きく転換する年度となりそうです。新たな施策や方針が今後示されてくると思われまますので、行政の動向については気に掛ける必要があると感じました。

第20回近畿手をつなぐ育成会連絡協議会 リーダー養成研修会が開催されました

2月16日に第20回近畿手をつなぐ育成会連絡協議会リーダー養成研修会が、京都で開催されました。

今回は、知的障がいのある人たちの「これからの暮らしの場を考える」をテーマに午前中は、基調講演、

午後からは、ワークショップが行われました。

基調講演では、「入所施設の昔と今～施設はどう変わってきたか・どうあるべきか～」と題し、社会福祉法人 京都杉の木会 京北やまぐにの郷 施設長の廣幡頭一氏がご講演されました。

京北やまぐにの郷は、自閉症のお子さんを持つ親御さんが、養護学校卒業後の生活の場を確保するために運動され、平成元年6月に開設された入所施設です。利用者の約8割の方が自閉症で、平均支援区分も5.81と大半の方が最重度になります。開所時の居室は、4人部屋が認可基準となっていました。現在は、4人部屋を改造して2人部屋を増やし、利用者のパーソナルスペースも確保されています。48名の利用者は、約10名単位の5つの生活グループに分かれて食事や入浴、団らん等が行われており、日中活動は、生活棟から外に出て作業棟で行う職住分離がされています。支援においては、視覚支援を活用して、わかりやすく教えることや、作業に取り組みやすいように環境を整理すること、やる気や自信を持ってもらえるような工夫をすることを大切にしているとのことでした。また、入所施設の課題として、利用者の方が地域生活をされている人に比べて選択する機会が非常に少ないこと、設定されている中での生活のため受身的になりがちなこと、そして自発的な要求が出しにくい状況での自己選択・自己決定の弱さを挙げられていました。廣幡氏は、将来像として入所選択も選択肢の中に含まざるを得ないという現実も踏まえることが必要で、それは必要悪とは思っていないと言われました。

これからの入所施設は、最重度の障がい者や強度行動障がいのある人、より高度な支援を要する人たちに対する適切な支援を提供し、混乱の修復や信頼の回復をするトリートメント機能、24時間365日の生活を支える支援体制を活かしたセーフティーネット機能、社会資源としての地域生活支援拠点機能が求められると話され、入所施設がこれからの暮らしの場としての選択肢になれるよう、機能を充実していかなければならないと思うと結ばれました。

午後からは、10グループに分かれ「本人の暮らしの場について考える」をテーマにワークショップが行われました。「入所、グループホームに入ってから安心事・心配事・在宅での不安」、「望ましいと思われる暮らし方」の2点について、各グループで活発な意見交換があり、最後の発表ではいろいろな意見を聞くことができました。グループホームではいつまで暮らせるのか、高齢や病気になった時はどうなるのか、グルー